

熊本の教え子たちへ

熊本県 久保田 英之

平成28年、熊本地震の年に初めて神戸マラソンにエントリーしました。神戸には思い出があります。阪神淡路大震災の直後に所用で関西に行く機会があり、被災地を歩いて移動したことを今でもよく覚えています。その後、学校の先生になって、このときの経験とともに地震のこわさや被災された方々の悲しみを子供たちに伝え続けてきました。平成28年に初めて神戸を走ってから令和元年まで毎年エントリーし続け、昨年と一昨年の開催中止を経て、今回で5回目となります。スタート前に「しあわせ運べるように」を歌い、青空に向かって黄色い手袋をふるとき、被災された方々の心に少しでも寄り添えたような気持ちになります。神戸の皆さんの応援を全身で受けながら走っているとき、困難や悲しみを乗り越えてこられた方々の心に少しでも寄り添えたような気持ちになります。年齢とともに体力が低下し、以前のように記録更新を目標に走ることはなくなっています。それでも、神戸のまちをこれからも走り続けたいと思っています。そして、この思いを教え子たちにも伝え続けていきたいと思っています。コロナ過ではありますが、神戸マラソンが開催されることを心から願っています。

ランナーエピソード つなぐ～神戸を走る私から被災地へ～



KOBE MARATHON
2022.11.20 SUN